



書 評

Q & A 循環管理： 麻酔科専門医が答える 74 の疑問

原 哲也・編

今回は長崎大学原哲也教授の御編集による“Q & A 循環管理：麻酔科専門医が答える 74 の疑問”という書籍をとりあげる。

書評子が調べた限り、克誠堂出版からはタイトルに Q & A が含まれる書籍として“Q & A 形式で学ぶ周術期気道・呼吸管理の基礎と実際”“Clear Q & A 88 筋弛緩薬を知りつくす”“明日からの臨床麻酔が広がるレミマゾラム Q & A”が刊行されている。このうち“Q & A 形式で学ぶ周術期気道・呼吸管理の基礎と実際”は当書評子が本誌の 70 巻 9 月号（2021 年）で紹介させていただいた。一般的に Q & A というタイトルの書籍の多くはベッドサイドあるいは手術室内での研修医あるいは専攻医から多く提起される臨床クエスチョンを想定し、これらに対して指導医がさまざまなエビデンスを解説するとともに、指導医なりの解決策を提示する、という形式を取るものが多いであろう。

一方、本書の特徴として、日本麻酔科学会の教育ガイドラインからクエスチョンが組み立てられている点が挙げられる。本書では脳、自律神経、心臓、肝臓、腎臓、循環モニタリング、術中合併症、出血への対応、心臓手術、非心臓手術の計 10 の章立てがなされており、それぞれに臨床クエスチョンを配置するという構成が取られている。それぞれの臨床クエスチョンとしては“低血圧への対応は？”“ペースメーカー患者の周術期管理は？”といった実践的、臨床的な内容も当然見られるが、“心臓反射とは？”“冠動脈盗血現象とは？”“肝血流に対する麻酔薬の影響は？”といった循環生理に踏み込んだクエスチョンも取り上げられている。後者に対してはこれまで Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology, Miller's Anesthesia など大型のテキストを参照するのがほぼ唯一の解決策であったが、本書ではこれらがコ

ンパクトにまとめられている点がありがたい。

では、本書を実際の研修医、専攻医の指導にどのように活用すればよいであろうか。実際の臨床現場においては研修医の大多数あるいは麻酔科専門研修を開始した直後の専攻医は、小型のマニュアルで必要な知識を得ていることが多いと推察する。とはいえ、循環管理を含めた麻酔管理を適切に行ううえでは麻酔中に生じる循環変動の背景に関する理解が欠かせない。しかし、前述したようなテキストあるいは英文の review を読むように指導するのも現実的ではないように思われる。このギャップを埋める、すなわち循環変動の背景にある循環生理に関する説明を本書に任せられる点が秀逸であると感じた。この点では指導医側が本書に何が記載されているかを熟知しておくことが活用の鍵となるであろう。また、教育ガイドラインが事実上の専門医試験の出題基準となっていることを勘案すると専門医試験の準備の際にも活用できる内容であると感じた次第である。

適切な循環管理は安全な麻酔の前提条件であり、本書は循環生理を学びたい研修医、専攻医の方々、および指導に当たっておられる先生方にお勧めしたい良著である。最後になるが、クエスチョンの項目の選択、コンパクトかつ十分な記述という点でも優れた書籍であり、編者、執筆者のご尽力に敬意を表したい。

(東邦大学医療センター大橋病院麻酔科

小竹 良文)

B5 判, 183 頁

2024 年 6 月, 定価 5,720 円

克誠堂出版

